

広域連携SDGs未来都市  
広域連携SDGsモデル事業 事業計画

リニア時代に備えた持続可能な  
スロートゥーリズム構築事業

〜<sup>もり</sup>森林の癒し ストレスマネジメントの里づくり〜

岐阜県中津川市(代表提案者)、長野県塩尻市、  
長野県木曽郡上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、下伊那郡阿智村

# 中津川・塩尻・木曽・下伊那圏域／構成市町村の概要

## 中津川・塩尻・木曽・下伊那圏域の概要

当圏域は、岐阜県南東部と長野県南西部に位置し、総面積は約2,727km<sup>2</sup>、総人口は約16.9万人を有する。古くから中山道や東山道の宿場が整備される交通の要衝として栄えるとともに、森林率84.4%の雄大な自然環境を有し、木曽檜をはじめとする木材の産出や、岐阜県・愛知県の水源地として、重要な役割を担っている。

総人口(R5.12.1) : 169,349人  
総面積(R2) : 2,727.03km<sup>2</sup>  
総現況森林面積(R2) : 2,301.72km<sup>2</sup>  
森林率(R2) : 84.4%

## ⑦長野県木曽郡王滝村の概要

人口 : 663人 面積 : 310.82km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 274.01km<sup>2</sup> 森林率 : 88.2%

## ①岐阜県中津川市の概要

人口 : 73,598人 面積 : 676.45km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 528.30km<sup>2</sup> 森林率 : 78.1%

## ②長野県塩尻市の概要

人口 : 66,129人 面積 : 289.98km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 217.66km<sup>2</sup> 森林率 : 75.1%

## ⑥長野県木曽郡木祖村の概要

人口 : 2,481人 面積 : 140.50km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 125.33km<sup>2</sup> 森林率 : 89.2%

## ⑤長野県木曽郡木曽町の概要

人口 : 9,944人 面積 : 476.03km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 418.09km<sup>2</sup> 森林率 : 87.8%

## ③長野県木曽郡上松町の概要

人口 : 3,859人 面積 : 168.42km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 151.42km<sup>2</sup> 森林率 : 89.9%

## ⑧長野県木曽郡大桑村の概要

人口 : 3,195人 面積 : 234.47km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 202.82km<sup>2</sup> 森林率 : 86.5%

## ④長野県木曽郡南木曽町の概要

人口 : 3,669人 面積 : 215.93km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 191.76km<sup>2</sup> 森林率 : 88.8%

## ⑨長野県下伊那郡阿智村の概要

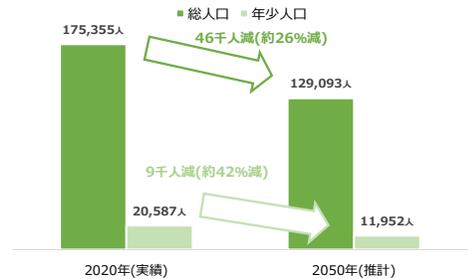
人口 : 5,811人 面積 : 214.43km<sup>2</sup>  
現況森林面積 : 192.33km<sup>2</sup> 森林率 : 89.7%



# 圏域の現状と課題／広域連携の必要性／広域連携の方向性

## 圏域の現状と課題

- ・ 少子化や若者の流出等により、**担い手不足や地域経済の衰退が懸念**される。
- ・ 豊かな森林、中山道、東山道、木曾川等の共通する魅力ある資源が豊富にあるが、**広域で連携した活用が十分にできていない。**



(出典) 日本の地域別将来推計人口 (R5年推計) より作成

## 広域連携の必要性

- ・ 国内外から多くの人々を呼び込み、安全・安心して周遊・体験・滞在できる環境を整え、**持続的に発展できる圏域を目指す必要がある。**
- ・ リニア開業による新たな人流や物流を、**広域に行き渡らせる仕組みが必要**である。

新たな国土の将来ビジョン 目指す国土の姿-国土構造の基本構想  
広域的な機能の分散と連結強化  
三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成による地方活性化、国際競争力強化  
(全国各地との時間距離の短縮効果を活かしたビジネス・観光交流、商圏・販路の拡大等)  
新たな交流圏域内にとどまらず全国各地との時間距離短縮の効果を活かし、ビジネスや観光等の人流の一層の促進を図る。全国各地の地域資源を活かし、「日本中央回廊」と連携したビジネス・観光交流、商圏・販路の拡大につなげることで、国土全体にわたる地方の活性化や国際競争力の強化につなげる。

(出典)国土形成計画(R5.7)より抜粋

## 広域連携の方向性

- ・ 共通する資源を広域で一体的に活用する仕組みを構築し、国内外から多くの人を呼び込み、**持続的に発展する圏域を形成する。**
- ・ リニア岐阜県駅から圏域への交通網の連携により、**訪問者の利便性向上**を図る。
- ・ 小規模自治体単独のSDGsへの取組には限界があるため、**広域連携によるスケールメリットを活かした取組を実施し、圏域内の活性化**を図る。

地域ビジョンの実現に資する施策間連携・地域間連携の推進  
<モデル地域ビジョンの例>

【SDGs未来都市】  
地方創生に取り組むに当たって、SDGsの理念に沿った経済・社会・環境の三側面を統合した取組を進めることで、政策の全体最適化や地域の社会課題解決の加速化を図ることが重要である。  
(略)社会課題が共通する地域において、地方公共団体の枠を超えたSDGsの取組も広がっており、こうした地域間連携の取組を重点的に支援し、SDGsを原動力とした持続可能なまちづくりを促進する。

(出典)デジタル田園都市国家構想 総合戦略(R5改訂版)より抜粋

# 提案に至った経緯

## 協議会の設立

- ・ 令和5年8月2日、中津川市長の呼びかけで、「中津川・木曽下伊那の圏域において共通する自然、歴史、文化等の資源を広域で活用してSDGs(持続可能な開発目標)を推進することにより、持続的に発展する地域を形成する」ことを目的として、「**中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会**」を設立。

【構成市町村(1市3町4村) ※うち人口5万人未満の小規模自治体7団体】  
岐阜県中津川市、長野県木曽郡上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、下伊那郡阿智村



## 専門部会 (広域観光部会)の設置

- ・ 同日、協議会規約に定める、「広域連携SDGsの推進に関する専門的な事項について調査及び研究し、構成市町村で連携した事業を実施する」ための専門部会として、「**広域観光部会**」を設置。
- ・ 初めての試みであるため、連携成果が見えやすい事業をすべきとの判断から先ずは観光領域に着手。将来的に観光領域以外の部会も設置を想定。



設立総会の様子・構成8市町村首長



## 協議会 構成市町村 の拡大

- ・ 同年12月19日、本協議会の活動趣旨に賛同の意を示した**長野県塩尻市**が参加し、2市3町4村の組織体制に拡大し、「**中津川・塩尻・木曽・下伊那広域連携SDGs推進協議会**」に改称。
- ・ また、岐阜県・長野県両県にオブザーバーとして参加いただくことで、県域を跨いだ連携体制を強化。



## 連携事業の承認

- ・ 同日、広域観光部会で検討した事業内容(次頁以降)と、内閣府広域連携SDGsモデル事業へ提案することを、協議会にて9首長の全会一致で承認。

# 圏域内観光のあり方／目指す姿

## ■ 圏域内観光のあり方

各自治体においてそれぞれ工夫を凝らし、観光振興に取り組んでいるところであるが、**リニア時代に備えるためには、広域連携によるスケールメリットを活かし、圏域一体となって持続可能な観光振興に取り組むことが重要である。**

そのためには、圏域内に共通する自然、歴史、文化等の**資源を最大限に有効活用しつつ、磨き上げを行い、素晴らしい魅力を世界に向けて発信することが必要である。**

また、観光客の動向やニーズを確かなデータに基づき検証し、戦略的な政策立案を行い、**他にはない魅力的な圏域を形成することが必要である。**



## ■ 圏域内観光が目指す姿

- 世界に向けて豊かな森林資源や素晴らしい地域であることの発信
- 共通資源の保全と活用の両立(持続可能な観光圏の確立)
- デジタルを活用して取得した観光データに基づく戦略的な観光推進
- 観光客のニーズへの対応と満足度の向上
- リニア開業を見据えた周遊型観光の促進と自走化



# 事業概要／目標設定

## ■ 事業名

リニア時代に備えた持続可能なスロートーリズム構築事業  
～森林(もり)の癒し、ストレスマネジメントの里づくり～

【圏域でのスロートーリズムの考え方】  
この圏域には、豊かな自然を満喫し、森林の癒し効果を得て、心身の健康を保持することを目的とした観光ニーズがあり、広域での周遊型観光により来訪者のストレスマネジメント等を実現し、長期滞在・消費機会を拡大できる可能性が高い。

## ■ 事業概要

総面積の84.4%を占める森林や、中山道、東山道、木曾川をはじめとする自然、歴史、文化等、地域固有の資源を最大限活用し、リニア時代に備えた持続可能なスロートーリズムを構築する。

首都圏や関西圏から約1時間でリニア岐阜県駅まで移動できるため、圏域内は在来線やバスで移動し、ゆっくり歩きながら観光や森林浴、カヌー体験、温泉等の雄大な自然を満喫できるプログラムを用意し、国内外から周遊・体験・滞在するリピーターの増大を図り、持続的に発展する地域を形成する。

## ■ 事業の目標

リニアの圧倒的な時間短縮効果を活かし、圏域内の雄大な自然にゆっくりと触れられる時を過ごし、心身の健康を保持する「森林(もり)の癒し ストレスマネジメントの里」を目指す。

### 《SDGsの目標》



ターゲット  
03,d



ターゲット  
08,9



ターゲット  
09,1



ターゲット  
12,8



ターゲット  
15,2

# 事業の内容①

事業①	広域観光エリアでのデジタル情報発信
事業目的	<ul style="list-style-type: none"><li>■ デジタル技術を活用し、<b>広域観光エリア</b>で<b>情報発信</b>することによる集客力の向上</li><li>■ 広域で同一のシステムを利用し、<b>スケールメリット</b>を活かした<b>周遊観光の促進</b></li><li>■ 旧街道、自然、文化等の共通する資源の活用や、体験・滞在型観光の発信による<b>滞在時間・観光消費額の向上</b></li></ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>圏域でのデジタル観光マップ等、周遊観光を促進するデジタルツールの構築・運用</u></li><li>・ Webページへのアクセスのみで利用可能である等、<u>観光客が手軽に利用できる仕組みの検討</u></li><li>・ ポスター、配布物、シール、ポップ等での二次元コード表示やWebサイトのリンク表示等、<u>広域の関係者と連携した利用促進の実施</u></li><li>・ デジタルスタンプラリーの検討・実施　・<u>事業者からの発信</u>による広範囲への周知</li><li>・ Googleマップ等の<u>観光客の利用頻度が高く、更新や維持管理が容易なツールの活用</u></li></ul>
事業②	利用動向調査のデジタル化と取得データを活用した政策立案
事業目的	<ul style="list-style-type: none"><li>■ デジタル活用による広域観光エリアを対象とした<b>効果・効率的な観光客の動向の調査・把握</b>及び<b>データを活用した政策立案</b></li></ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ デジタルを活用した観光客利用動向調査の検討・実施・分析及び活用（<u>システム利用者から自動で情報を取得できる仕組みを活用</u>）</li><li>■ デジタルを活用したアンケート調査の検討・実施・分析及び活用</li><li>■ 推進協議会(広域観光部会)にて取得データの<u>活用方法を議論し広域観光政策を立案</u></li></ul>

# 事業の内容②

事業③	外国人観光客への情報発信
事業目的	■ 外国人観光客をターゲットとした、 <b>多言語化された広域観光情報発信</b>
事業内容	■ <u>システムを活用した日本語案内文と同程度の情報の多言語発信</u> ■ Googleマップ等の利用者が多い無料ツールを活用した情報発信の強化
事業④	DX人材育成及び官民連携による情報発信体制の強化
事業目的	■ 関係事業者による <b>自立・自発的で効果・効率的な体制の構築</b> による持続的な情報発信 ■ デジタルを活用した国内外の観光客に向けた <b>官民協働による地域の魅力発信</b> ■ 参加事業者の拡大等の <b>発展性のあるツール</b> の活用と民間による自走
事業内容	■ Google「ビジネスプロフィール」を活用した <b>官民連携による観光地・店舗等の情報発信</b> ・ ビジネスプロフィールの活用方法セミナー、フォローの実施(民間のDX人材の育成) ・ データ収集・活用(各店舗の検索回数、電話回数、Webサイトへの訪問数等)



# 事業の内容③

## 事業⑤

### 健康増進型/環境配慮型の広域観光周遊スローツーリズムの造成と効果検証

#### 事業目的

- 広域観光エリアに点在する共通資源を活用した**広域観光周遊スローツーリズムの造成と販売**  
⇒ **ストレスマネジメントの里づくりの実現**
- 団体観光客をターゲットとした、**森林の癒し力に着目した「ストレスマネジメント・健康増進型」**や**森林保全・脱炭素に着目した「環境配慮型」**で、**圏域ならではの複数の歴史・文化・アクティビティ等**を活用した広域観光周遊スローツーリズムの造成と効果検証

#### 事業内容

- 委託事業者等による現地調査、旅行商品の造成及び販売の実施  
※森林の癒しによるストレスマネジメント・健康増進×圏域ならではのストーリー・資源活用  
※環境配慮型(公共交通機関利用/マイボトル・マイ箸持参のエコ型やカーボンオフセット型等)  
×圏域ならではのストーリー・資源活用
- 持続的な商品化に向けた**効果検証とテスト販売の実施**
- 商品の効果を現地ガイドや通訳案内士、観光関係者等へ広く周知を図り、情報共有することで、**多くのステークホルダーと連携した新たな商品を造成**

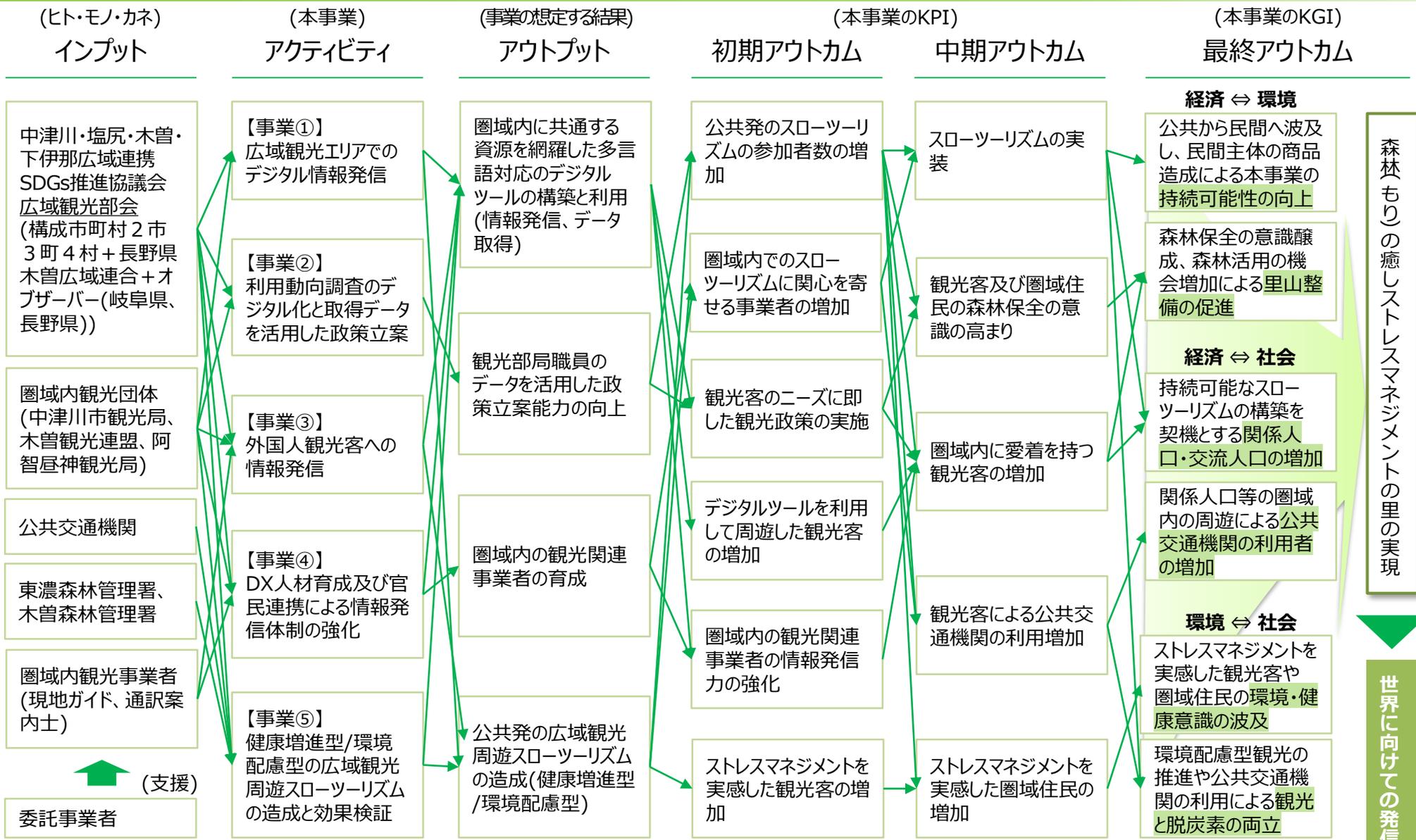
## 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）に対する意識

ポストコロナにおいてサステナブルツーリズムのニーズ・訴求力が高まっている。

- 世界の旅行者の76%、日本の旅行者の56%が、「今後1年間において、よりサステナブルに旅行したい」と回答。
- 世界の旅行者の74%、日本の旅行者の53%が、「よりサステナブルな旅行の選択肢を旅行会社に提供してほしい」と回答。
- 世界及び日本の旅行者の80%が、「よりサステナブルな旅行をすることは自身にとって重要である」と回答。

(2023.7 Booking.comによる調査結果より引用)

# ロジックモデル

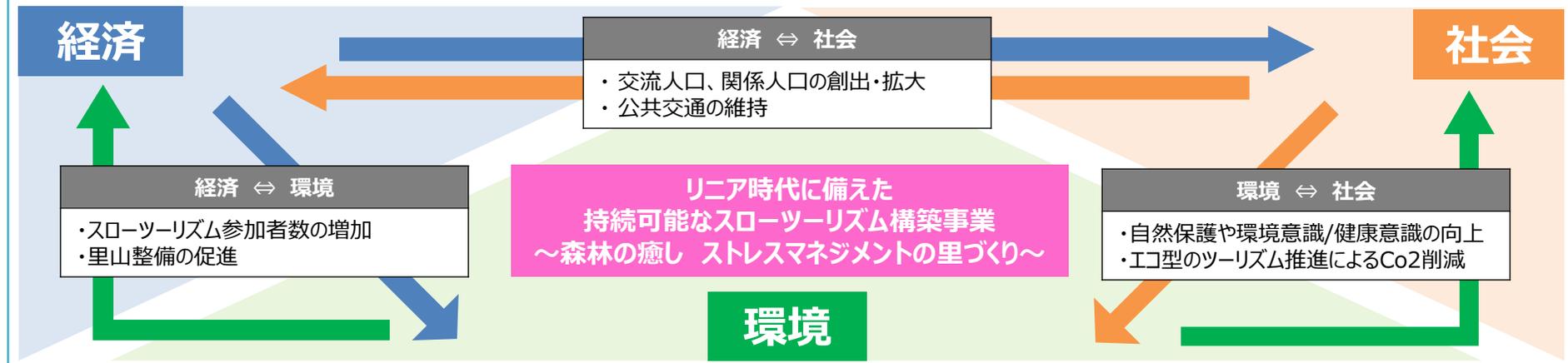


森林もりの癒しストレスマネジメントの里の実現

世界に向けての発信

# 事業による相乗効果等／事業のKPI

## 事業による相乗効果等



### 《経済⇔環境の相乗効果等》

#### ● 目指すべき姿(=KGI)

- ・ 公共主体のスローツーリズムの成果が圏域内外の民間事業者に波及し、民間主体の商品造成・販売により持続可能性が高まる。
- ・ 参加者の森林保全の意識の高まりや森林活用の機会の増加により、**里山整備が促進**される。

#### ● 本事業のKPI

スローツーリズム実装数：

**5 ツアー** (R8年度)

※基準値：0 ツアー(R5年度)

### 《経済⇔社会の相乗効果等》

#### ● 目指すべき姿(=KGI)

- ・ 持続可能なスローツーリズムの構築を機に、圏域の魅力や付加価値が一層高まり、圏域内を周遊する**交流人口・関係人口が創出・拡大**される。
- ・ **公共交通機関の利用者数の増加**が期待できる。

#### ● 本事業のKPI

デジタルツールを利用し圏域内を周遊した観光客の割合：

**20%** (R8年度)

※基準値：未計測(R5年度)

### 《環境⇔社会の相乗効果等》

#### ● 目指すべき姿(=KGI)

- ・ **ストレスマネジメントの里の形成により観光客だけでなく、圏域住民にも環境・健康意識が波及**する。
- ・ **環境配慮型のスローツーリズムの推進により、公共交通機関利用者やマイボトル等の持参者が増え、観光と脱炭素の両立が図られる。**

#### ● 本事業のKPI

ストレスマネジメントを実感した観光客の割合：

**70%**(R8年度)

※基準値：未計測(R5年度)

# 執行体制/多様なステークホルダーとの連携

## 中津川・塩尻・木曽・下伊那広域連携SDGs推進協議会 (構成市町村：2市3町4村)

会 長：中津川市長  
副会長：南木曽町長  
事務局：中津川市 政策推進課

### 広域観光部会

#### 岐阜県中津川市(代表市町村)

担当部署：観光課

役割：総合調整、事業者管理、企画運営

#### 長野県塩尻市

担当部署：観光課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡上松町

担当部署：産業観光課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡南木曽町

担当部署：産業観光課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡木曽町

担当部署：観光商工課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡木祖村

担当部署：産業振興課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡王滝村

担当部署：企画・観光推進室

役割：現地調整等

#### 長野県木曽郡大桑村

担当部署：産業振興課

役割：現地調整等

#### 長野県下伊那郡阿智村

担当部署：商工観光課

役割：現地調整等

#### 長野県木曽広域連合

担当部署：地域振興課

役割：現地調整サポート、企画運営サポート

(注)太字の自治体が提案自治体

助言、  
サポート



岐阜県(推進協議会オブザーバー)

担当部署：恵那県事務所

役割：助言、サポート

長野県(推進協議会オブザーバー)

担当部署：木曽地域振興局

役割：助言、サポート

情報交換



中津川市観光局、木曽観光連盟、  
阿智昼神観光局

公共交通機関

東濃森林管理署、木曽森林管理署

情報提供、  
支援



現地ガイド、通訳案内士



育成支援

業務委託



委託事業者

※令和6年度に公募にて業者選定

役割：デジタルツール構築、観光コンテンツ造成等

# 自律的な好循環の具体化に向けた取組/スケジュール

## 自律的な好循環の具体化に向けた取組

豊かな森林資源や旧街道、食文化等の圏域に共通する資源を広域で一体的に活用し、2市3町4村が連携してスケールメリットを活かして「森林(もり)の癒し ストレスマネジメントの里」づくりを行い、デジタル技術を活用して国内のみならず世界に向けて発信するなど、人々の健康保持や地域経済の発展等につながる「**リニア時代に備えた持続可能なスロートーリズム構築事業**」を行う。

当該事業実施を機に、民間主体による新たな観光資源やコンテンツの発掘が行われることで圏域の魅力度が向上し、リニアによる新たな人・物の流れを圏域に導くことで集客力が更に高められ、それらによって**圏域内観光の目指す姿がより確かなものとなること**で、**民間の更なる圏域への再投資に繋がり**、自律的な好循環を形成することができる。

## 令和8年度までのスケジュール

事業	令和6年度	令和7年度	令和8年度
【事業①】広域観光エリアでのデジタル情報発信	デジタルツール検討・構築 利用促進	利用促進(スタンプラリー等) 情報のブラッシュアップ	
【事業②】利用動向調査のデジタル化と取得データを活用した政策立案	調査の仕組み検討・試行	調査の継続実施 データ活用した政策立案	
【事業③】外国人観光客への情報発信	デジタルツール検討・構築 (事業①と同じツールを想定)	ツールの維持・利用促進 対応言語の追加検討	
【事業④】DX人材育成及び官民連携による情報発信体制の強化	事業者への導入セミナー開催 公共施設の利用促進	活用事例の周知	官民連携事例の周知
【事業⑤】健康増進型/環境配慮型の広域観光周遊スロートーリズムの造成と効果検証	委託事業者の現地調査 商品造成	ツアー商品のテスト販売・ 正式販売	ツアー商品の販売・ ブラッシュアップ